

詩を味わおう

今日は、子どもたちがかいた詩をいくつか紹介します。「言葉のしっぽ」という本から選びました。一つ一つ詳しく説明はしないので、心で感じてください。

* 全部で 16 の詩を紹介しましたが、ここでは紙面の関係でいくつか紹介させていただきます。

参照：「ことばのしっぽ」読売新聞生活部監修

大発見

フーの息は
口先からだから
冷たいんだね
ハハの息は
心からくるから
あったかいんだね

四年生

うさぎとかめ

おかあさん
うさぎとかめのおはなしで
かめさんは えらいね
いっしょうけんめい
やまず あるいたね
でも うさぎさんもえらいよ
だって ちゃんと
おひるねしたでしょ
かなこが おひるねすると
おかあさん
すっごくほめてくれるもんね

四歳

かぶとむし

すむしみたい
に
なかないけど
かぶとむしは
こころのなかで
どすこいって
いつてるんだよ

四歳

開く

目を開く
カーテンを開く
「おはよう」と口を開く
朝食の時
れいぞうこを開く
「行ってきます」と
ドアを開く
一日が
新しい本を開くように
始まってゆく

四年生

幸福

幸福とは
自分で見えるものではない
けど
他の人からは見えるのだ

中学二年生

ふとん

おかあさん
ぼくタイムマシンで
あしたにいくからね
じゃあ
おやすみなさい

一年生